様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月 １０ 日現在

機関番号：３４３１０
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2012～2014
課題番号：２４５２０８４７

研究課題名（和文）米国アリゾナ州における日系人強制収容所に関する歴史資料に基づく実態調査

研究課題名（英文）Historical Research on Japanese American Internment Camps in Arizona, U.S.A.

研究代表者
和泉　真澄（Izumi, Masumi）

同志社大学・グローバル地域文化学部・教授

研究者番号：００３２９９５５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では第二次大戦中に強制収容された日系アメリカ人の体験のなかであまり調査されてこなかった、アリゾナ州の収容所に焦点を当てて歴史資料を収集した。ヒラリバー収容所では農業が盛んに行われ、戦前から青果・花卉農業で活躍していた一世が野菜や花作りに活躍し、収容所の食糧事情を大きく改善したことが明らかになった。収容所の高校卒業アルバム表象からは、戦争と収容の影響を最小限に抑えようとごく普通のアメリカの高校生活が描かれる一方、従軍した二世の活躍は大きく取り上げられていることから、卒業アルバムが単に卒業生の思い出作りだけでなく、主流社会に二世のアメリカ人性を伝えるメディアとして機能していたことが分かった。

研究成果の概要（英文）：This research project uncovered historical materials on the Japanese American internment during World War II. The project focused on the camps in Arizona, an understudied state in historical research of internment. The War Relocation Authority records showed that Issei, or first generation Japanese Americans, contributed a great deal to the agricultural production of vegetables and fruits in the Gila River camp. Issei used their agricultural and horticultural skills that they developed during the prewar period in California, and the massive agricultural production greatly improved the camp diet. The analysis of the camp high school yearbooks in Gila River showed that Nisei tried to portray their high school days in the image of a "normal" American high school experience. At the same time, the yearbooks represented the Nisei soldiers vividly, indicating that the yearbooks were created to convey the images of Nisei as "American citizens" to the world outside the camp.

研究分野：アメリカ史・カナダ史

キーワード：日系人戦時強制収容　アリゾナ州　日系農業　日系一世　日系二世

## １．研究開始当初の背景

第二次世界大戦期において、アメリカ合衆国およびカナダの太平洋岸に在住していた日系人が、市民権の有無に関わらず敵性外国人として強制移動･収容されたことは、研究者のみならず、一般のアメリカ・カナダ国民ならびに日本国民にも比較的周知の事実である。しかし、人種主義的政策批判を主たる関心として行われる強制収容の研究は、研究対象とされる収容所や注目される要素に偏りを生んできたこともまた事実である。10 か所あった戦時転住局の転住所（強制収容所）のなかで、マンザナー、ハートマウンテン、ポストンなどは比較的調査が進んでいるが、アリゾナ州のヒラリバー収容所については、ほとんど先行研究がない。また、収容政策が作られた経緯や収容政策に対する日系二世の対応については、多くの考察や証言が残されているが、収容生活の具体的な実態や、一世・帰米二世ら日本語話者の体験については、あまりこれまで注目されてこなかった。したがって日系人強制収容政策の全体像を把握するには、まだ調査が進んでいない収容所に関する調査が必要であった。

## ２．研究の目的

本研究は、ほとんど先行研究で調査が行われていない米国アリゾナ州ヒラリバー収容所を中心に、収容生活の実態調査に必要な歴史資料の発掘を目的とした。アリゾナ州の特徴として、先住民居留地やメキシコ系移民の収容施設などとの関連も視野にいれつつ、収容所の衣食住など生活実態を明らかにする調査を計画した。特に収容所における日本語話者の活動や思考については研究が遅れているが、収容所では日本語による刊行物などは極めて厳しく制限されていたため、本研究では、特に一世の活動に関して注意を払いつつ、政府文書などからその再現を試みることとした。

## ３．研究の方法

主たる方法は、ヒラリバー収容所関連の歴史資料を収集し、そこから収容所の生活実態と入所者たちの活動、思考を読み取ることである。政策レベルの観点と個人あるいはコミュニティ・レベルの双方向から見ることで、日系アメリカ人の体験を重層的に検証するため、(1)政府文書等の公文書・記録の収集、(2)収容所内で発行された新聞、その他の資料の収集、(3)当事者ならびに関係者のインタビューの 3 つの方法論を併用した。

具体的に収集した資料としては、アリゾナ州南部ツーソン市にあるアリゾナ大学図書館所蔵の、アメリカ政府の日系人強制収容に関するさまざまな記録の集成である United States War Relocation Authority papers, 1942-1946、およびカリフォルニア大学ロサンゼルス校所蔵の Charles Kikuchi Papers などを複写、収集した。アリゾナ大学図書館の、The "Tucsonians" Oral History Project collection, 1947-2002 というコレクションが、戦時中にツーソン市郊外の、現在は Gordon Hirabayashi Site と呼ばれる連邦刑務所に服役した日系人に関する記録を含んでおり、それも収集した。アリゾナ州歴史協会にも Gordon Hirabayashi Site 関連の資料、ヒラリバーに関する新聞資料、およびヒラリバー収容所の高校卒業アルバムなどが所蔵されていたため、収集した。またワシントン DC のアメリカ国立公文書館の War Relocation Authority の記録のなかから、各収容所の卒業アルバム、ヒラリバーおよびポストン収容所の地図やその他の記録、強制移動前の日系人の所有財産などに関する記録を重点的に収集した。

元入所者に対する聞き取り調査としては、2013 年夏にアリゾナ州フェニックス、およびワシントン州シアトルで元ヒラリバー収容所の入所者へのインタビューを行い、また 2014 年夏にはロサンゼルスでトゥーリレイクの元収容者へのインタビューを行った。

## ４．研究成果

2012 年度は主に資料収集に研究の主眼を置くと同時に、北米の日系人強制収容に関する公開講演を行い、一般的な啓蒙に努めた。研究出張としては、4 月 29 日から 5 月 7 日まで、アリゾナ州における反アジア系移民運動に関する資料収集のため、アリゾナ州ツーソン市のアリゾナ大学で調査を行った。また、ヒラリバー収容所関連の資料収集のため、8 月 15 日から 9 月 3 日まで、カリフォルニア大学ロサンゼルス校、およびアリゾナ大学へ出張した。

成果発表としては、5 月 12 日に立命館大学土曜講座シリーズ「第二次世界大戦における在外日本人の強制移動」の二人目の講演者として、公開講演「鉄条網なき強制収容所—第二次大戦下の日系カナダ人—」を立命館大学衣笠キャンパスにて行った。2013 年 1 月 10 日には、大阪経済大学日本経済史研究所黒正塾第 10 回秋季学術講演会にて、公開講演「日系コミュニティの変容と模索—グローバル化する和太鼓の事例より—」を行った。

出版物としては、翻訳書として、ミチコ・ミッヂ・アユカワ著『カナダへ渡った広島移民—移住の始まりから真珠湾攻撃前夜まで—』（明石書店、2012 年）が 11 月 5 日に出版された。

2013 年度は資料収集や現地調査を行うとともに、調査研究の内容を整理・発表することを心がけた。研究出張としては、8 月 1 日、2 日に広島で日系人強制収容に関する英語朗読劇『Breaking the Silence』

を鑑賞し、広島県立美術館で『尊厳の芸術』展を鑑賞した。8 月 13 日から 15 日にアリゾナ州ツーソンおよびフィニックスでヒラリバー収容所の農業に関する資料収集および聞き取り調査を行った。11 月 25 日から 27 日にかけては、ワシントン DC のアメリカ国立公文書館で資料収集を行った。また、2014 年 1 月 29 日から 31 日までは琉球大学で移民関連資料の調査をした。

研究発表としては、2013 年 6 月 30 日には日本移民学会で「日系アメリカ人強制収容所における農業－アリゾナ州ヒラリバー戦時店住所の事例より」と題して口頭発表を行った。7 月 4 日から 7 日には全米日系人博物館主催の会議 “Speaking Up! Democracy, Justice, Dignity” でカナダにおける日系人戦時収容体験について解説した。10 月 5 日にマイグレーション研究会で「メディアとしての卒業アルバム－日系アメリカ人戦時転住所における高校生活の表象分析より」と題した口頭発表を行った。

出版物としては、「『ゴードン・ヒラバヤシ』キャンプ場について－カタリナ連邦刑務所と日系アメリカ人徴兵忌避者たち－」『同志社法学』360 号(64 巻 7 号）、(2013 年 3 月)：II-617-640、および「鉄条網なき強制収容所－第二次世界大戦下の日系カナダ人」『立命館言語文化研究』25 巻 1 号（2013 年 10 月）：119-135 を単独執筆した。

一次資料の収集においては、ヒラリバー戦時転住所の元被収容者の聞き取りの他、ヒラリバーおよびその他の転住所の学校に関する新聞や卒業アルバムの資料を複写することができた。5 月 30 日および 6 月 20 日に地元のカナダ移民研究者の協力を得て、滋賀県の湖東移民村でカナダ元在住者に聞き取り調査を行った。7月にシアトルで行われた全米日系人博物館主催の日系人強制収容に対する戦後補償（リドレス）２５周年記念の会議において、トゥーリレイク隔離収容所の元被収容者の家族から、隔離収容所内の拘置所で執筆された日記の存在を知らされ、手書きの日記のワープロ起こしの作業をリサーチアシスタントの協力を得て始めた。

2014 年度は、追加的な資料収集や現地調査を行うとともに、調査研究の内容を整理・発表、一般公開することを心がけた。アリゾナ州の収容所での入所者の活動に関する論考を講義・公開講演などを通じて公開するとともに、トゥーリレイク収容所での帰米二世の体験を綴った手書きの日記の文字起こしの作業を進めた。

研究資料の収集としては、2014 年 8 月にアリゾナ州ツーソンでの収容所資料の収集の他、ロサンゼルスで帰米二世井上龍生の日記のポストン収容所分を新たに収集した。その他、ロサンゼルス在住の日系三世ノブコ・ミヤモトの親戚を福岡に訪ね、家族史を明らかにするために、聞き取り調査を行った。

研究成果の一般公開としては、2014 年 5 月 21 日、7 月 16 日および 10 月 15 日に、国際交流基金主催の米国日系人青年短期招へい事業「Kakehashi Project-The Bridge for Tomorrow」のオリエンテーション講義にて、“Growing Daikon in an American Concentration Camp: How Japanese Americans Coped with Life in Gila River” と題する講演を行い、ヒラリバー収容所における日系一世の農業活動について英語で解説した。また、2015 年 1 月 7 日に大学内の一般公開事業である「水曜チャペルアワー」の奨励において、「砂漠に花を咲かせましょう－戦時収容所の日系一世たち」と題した講演を行った。研究発表としては、2014 年 11 月 6 日にロサンゼルスで開催された American Studies Association の年次大会において “As American as Apple Pie: Fun and Fury in Japanese American Camp Schools during World War II” と題し、アリゾナ州ヒラリバー収容所の高校卒業アルバムの表象分析を英語で口頭発表した。

刊行物としては、「メディアとしての卒業アルバム－ヒラリバー日系アメリカ人収容所における高校生活の表象分析－」『立命館言語文化研究』26 巻 4 号（立命館国際言語文化研究所）：55-72 を単独執筆し、2015 年 3 月に刊行した。その他、「ユウジ・イチオカ（市岡雄二）著／ゴードン・H・チャン、東栄一郎編／関元訳『抑留まで－戦間期の在米日本人』彩流社、2013 年 11 月刊」の書評が『歴史評論』778 号：101-105 に掲載された。また、科研の年度が終了してからではあるが、2015 年 4 月 10 日に『日本人の国際移動と太平洋世界－日系意味の近現代史』米山裕・河原典史編（文理閣）の第５章として「バンクーバー暴動再考－環太平洋の国際動静と日本人移民」、pp.115-143 を刊行した。

## ５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　３件）


<u>和泉真澄</u>「メディアとしての卒業アルバム－ヒラリバー日系アメリカ人収容所における高校生活の表象分析－」『立命館言語文化研究』査読有、26 巻 4 号（2015 年 3 月）：55-72.

<u>和泉真澄</u>「鉄条網なき強制収容所－第二次世界大戦下の日系カナダ人」『立命館言語文化研究』査読無、25 巻 1 号（2013 年 10 月）：119-135.

<u>和泉真澄</u>「『ゴードン・ヒラバヤシ』キャンプ場について－カタリナ連邦刑務所と日系アメリカ人徴兵忌避者たち－」『同志社法

学』査読無、360 号(64 巻 7 号）、(2013 年 3 月)：Ⅱ-617-640.

〔学会発表〕（計　４件）
Masumi Izumi, “As American as Apple Pie: Fun and Fury in Japanese American Camp Schools during World War II,” American Studies Association Annual Meeting、ロサンゼルス、2014 年 11 月 6 日。
和泉真澄「メディアとしての卒業アルバム－日系アメリカ人戦時転住所における高校生活の表象分析より」マイグレーション研究会、私学会館、2013 年 10 月 5 日。
和泉真澄「日系カナダ人強制収容―アメリカとの比較」“Speaking Up! Democracy, Justice, Dignity” conference、Seattle、2013 年 7 月 6 日。
和泉真澄「日系アメリカ人強制収容所における農業－アリゾナ州ヒラリバー戦時店住所の事例より」日本移民学会、武蔵大学、2012 年 6 月 30 日。

〔図書〕（計　２件）
和泉真澄「バンクーバー暴動再考―環太平洋の国際動静と日本人移民」『日本人の国際移動と太平洋世界―日系意味の近現代史』米山裕・河原典史編（文理閣、2015 年）第５章、pp115-143.
ミチコ・ミッヂ・アユカワ著、和泉真澄訳『カナダへ渡った広島移民—移住の始まりから真珠湾攻撃前夜まで—』（翻訳、明石書店、2012 年）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者
和泉真澄　　（MASUMI IZUMI）
同志社大学・グローバル地域文化学部・教授
研究者番号：00329955

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：